S−KYT研修を受講して

千葉県袖ケ浦市消防本部

1．はじめに

本市は、東京湾沿いの千葉県のほぼ中央（東経139度58分、北緯35度26分）に位置し、面積94.93平方キロメートル、東西14キロメートル、南北13.5キロメートルの羽を広げた蝶形の平坦な丘陵地帯です。

気候は総じて温暖で、自然環境に恵まれているほか、臨海部では昭和40年代に入り、国の工業化政策により、海岸線が埋め立てられ現在では多数の企業が操業し、京葉臨海工業地帯の一翼を担う産業都市へと大きく変貌しています。

また、内陸部では計画的な宅地造成が行われ、農業・工業及び住宅の街へと移り変わっています。

袖ケ浦市臨海部の様子

2．袖ケ浦市消防団の概要

袖ケ浦市消防団は、昭和46年、袖ヶ浦町、平川町の合併により袖ケ浦町となり、23ヶ分団、団員数720名で新生袖ケ浦町消防団としてスタートし、昭和47年には、全国消防ポンプ操法大会に千葉県代表として出場、平成7年には、日本消防協会最高栄誉賞「まとい」を受賞しました。

活動内容は、災害出動から日頃の警備、警戒、広報活動を中心に「自分たちの地域は自分たちで護る」という精神で昼夜を問わず活動しています。

平成29年11月現在、団本部及び19分団、団員数423名の団員で構成しており、消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ型）19台全車両に小型動力ポンプを積載し配置しています。

毎年、4月に新入団員60名ほどが辞令交付後、消防団長から新入団員としての心構え、消防団の役割、重要性を学び、規律訓練によって協調性を認識するとともに、技術の向上を図るため、機関・救急講習の他、救助器具取扱い訓練も教育の一環として実施しています。

平成12年11月1日には、男性には出来ないソフト面を重視した活動や消防団のイメージアップを図るため、女性消防団員を採用する他、平成20年4月1日には、昼間の災害や大規模災害等に限定して活動する「機能別消防団員」の制度を導入するなど、団員確保にも積極的に取り組んでおります。

袖ケ浦市消防団訓練風景

3．Ｓ－ＫＹＴ研修の開催経緯

これまで本市では、消防団員の安全確保を目的として、平成23年度から安全管理の基礎講座である「安全管理セミナー」を受講していましたが、今年度は、消防団員ひとり一人の危険に対する予知能力を高めるとともに更なるスキルアップを図るため、消防団員等公務災害補償等共済基金から講師５名をお招きして、Ｓ－ＫＹＴ研修（2時間コース）を開催しました。

4．Ｓ－ＫＹＴ研修の様子

平成29年8月6日（日）、袖ケ浦市平川公民館にてＳ－ＫＹＴ研修を開催し、消防団長以下、女性消防団員5名を含む、97名の消防団員が受講しました。

この研修では、受講者を17グループに編成し、初めに研修の概要や災害現場において各団員が安全を確保し、確実に行動することの重要性、Ｓ－ＫＹＴの目的等について受講しました。

実技1では、行動の要所要所でひとり一人が安全で誤りのない活動を進めていくために行う確認行動である「指差し呼称」、チーム全員でスローガンを唱和してチームの一体感や連携感を盛り上げる「指差し唱和」、チーム全員が円陣を組んで集中力を高める「タッチ＆コール」を受講し、チーム内の連携強化等の方法について学びました。

実技2のＳ－ＫＹＴ基礎4ラウンド法では、イラストシートNO. 3「屋内への放水活動」を使用し、各グループにて、災害現場にどんな危険が潜んでいるのか、危険因子の追及や対応策について積極的に話し合うなど、各班とも充実した研修となりました。

研修を終え、Ｓ－ＫＹＴを受講した消防団員のアンケート結果をご紹介します。

・様々な考え方や対応方法の違いなど、研修を受けて勉強になった。
・初めて受講したが、今後の消防団活動において非常に役立つ講義だった。
・「ヨシ！」という言葉で、団結力がここまで深まるとは思わなかった。
・危険と感じたら意識を共有することが大切だと思いました。
・事故を防ぐためには知識だけでなく、意識することも必要だと感じた。

タッチ＆コール訓練の様子

グループワーキングの様子

5．今後の取組について

初めてＳ－ＫＹＴ研修2時間コースを受講しましたが、今回、実施できなかった健康ＫＹも積極的に取り入れて、消防団員の健康管理にも配慮して参りたいと思います。

袖ケ浦市消防団といたしましては、今後も継続的に公務災害防止研修を実施し、消防団員の公務災害防止や安全対策に万全を尽くし、「公務災害ゼロ」を目指していきたいと考えております。

参加者全員による指差し唱和
「袖ケ浦市消防団よし！」